

## 花はあわただしく散って・・・

真光寺川を清流にする会  
世話人 山口 拓郎

2月25日、高橋さんが亡くなった。享年70歳、あまりにもあっけない旅立ちだった。会が発足して8年、終始、縁の下の力持ちで会を支えて下さった。その献身的ご貢献に対してはただただ感謝の気持ちで一杯だ。今年の春は例年に比し天候不順だった。異常に早い開花宣言、そして寒の戻り、気がついたら花は散ってしまっていた。高橋さんの逝去、「HATSのつどい」に忙殺された日々、この苛酷な季節を決して忘れることはできないだろう。

{2月}

2月2日(金)鶴小三「道徳公開講座」2年間「道徳教育」の指定校になっている。午後から公開授業を参観、次いで講演がある。地域の方々も40名熱心に参加する。

2月7日(水)「里親通信」最終稿。高橋さんが入院されているため黒田さんが編集を引受けて下さる。感謝!

2月8日(木)「里親通信」印刷・発送。14時に鶴川支所へ黒田、山本、二田さん集まる。1月・2月号、各600枚を印刷し発送する。17時終了。これまではこの大変な作業を高橋さんが一人でこなして下さっていた。改めて苦勞が偲ばれる。18時「魚民」で「一木会」開催。ホームページは塩谷さんが引受けて下さることになりホッとす。最大の懸案が片づく。

2月11日(日)源流探検。快晴、青空が広がっている。10時半、下堰親水に十数名が集まる。若原夫妻と坊やと乳母車の赤ちゃんも。川沿いに景観を楽しみながら遡上する。谷戸の景観が次第に失われていくことは残念だ。源流は夜来の雨でぐちゃぐちゃになり足を取られそうになる。藪を掻き分け掻き分け「最初の一滴」に辿り着く。揃って記念撮影。更にもう一つの源流「窪平」へ。作業中の仲村さんが案内して下さい。「泰紹」で反省会。

2月13日「HATSのつどい」参加要請。夕刻、和光鶴小の松井先生来訪。概要を説明し参加を要請する。快諾「子ども達も喜ぶと思います」とのこと。安堵する。

2月15日(木)水質検査サンプル採集。7時に家を出る。雨が上がり早春の日射しが快い。4ヶ所で採集して9時半終了。18時、公園緑地課に行き滝ノ沢の公園化について意見具申する。

2月23日(金)「東京の明日」記念行事。午後雨の中を青山のホテルへ。50周年の記念式典が開催される。

2月25日(日)高橋さん逝去。エコネットの推進連絡会議に出席していたところ、訃報が届く。言葉を失う。諸行無常、余りにも早いお別れだった。

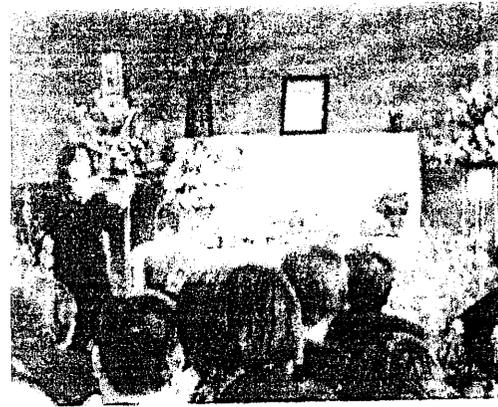
{3月}

3月1日(木)高橋さん通夜。18時から町屋の斎場で開催される。ご家族にお願いして「清流の会」として献花をさせてもらおう。おだやかな笑顔をうかべた遺影が新たな悲しみを誘う。

3月3日(土)「里親通信」の原稿作成。黒田さんから要請があり高橋さんの「悲しいお知らせ」をメールで送る。

3月6日(火)高橋さんへの弔辞要請。共働学舎で「偲ぶ会」が催されることになり桜井さんを通じて弔辞を要請される。

3月11日(日)清掃作業と「偲ぶ会」。前夜来激しい雨が降った。9時半、開戸親水へ。濁流がごうごうと逆巻いている。清掃作業を始めて8年余りになるがこんなに荒んだ表情は初めてだ。作業ができる状況ではない。ライオンズクラブの有志が数名見えていたが残念ながら中止せざるを得なかった。真光寺川も高橋さんの死を悼み悲しんでいるように思えた。帰宅し弔辞へ改めて朝の川の様子を書き加える。13時、共働学舎の「偲ぶ会」へ。井上さんのお孫さんが奏でるバッハのヴィオリン無伴奏ソナタがしみじみと心にしみた。高橋さんが生前障害を持つ仲間からも慕われていた様子が伝わってきた。終わって桜井さんの案内で裏の高台にある学舎の共同墓碑を訪れる。中国から輸入したと言う畳3畳ほどもある巨石が雨に濡れていた。高橋



さんはここに収まることを心から希望していたようだ。安らかな眠りを祈った。

3月15日(木)水質検査サンプル採集。7時に出発、快晴、冷たい風が頬に刺す。平橋周辺の水の冷たかった田圃の辺り「建売り住宅」の幟がはためいていた。

3月16日(金)「HATSのつどい」展示。午後フォーラムで設営、展示作業にかかる。応援多く17時前に目途がつく。大山、らん丈さんと和光鶴小の松井先生を待つ。19時に見える。終業式後の懇親会を中座して駆け付けられたそうだ。子ども達の鳥獣戯画風の見事な絵を持参、感激する。

3月18日(日)「HATSのつどい」発表。いよいよ発表当日となる。昼前にフォーラムへ。用意万端整えたつもりだったがアンケート用紙の印刷等に忙殺される。13時開始：水位の記録(松尾)水質の記録(松前)鳥(山本)魚(山岡)と進む。15時から子ども達の発表となる。参観の父兄で一杯になる。子ども達はグループ毎にそれぞれのテーマに基づいて発表していた。先ず感心したのは発表の技術が優れていたことだった。視聴覚室は設備が整っている。パワーポイント、ビデオ等を自在に駆使して進めていった。内容も優れていた。テーマをしっかり捉え仮説を建て深く掘り下げていた。そしてインターネットをフルに活用していた。あつと言う間に17時になり、聴衆から熱い拍手が寄せられた。角家先生、戸村さんが終始熱心に聴いて下さった。ねぎらいのお言葉を頂き疲れが吹っ飛ばす。19時から展示物を3Fから4Fへ移動する。北、大山、横田さんが残って作業を手伝って下さる。遅く肉体的には疲労の極に達したが、充実した気分です路につく。

3月19日(月)HATSのつどい展示替。早朝、フォーラムへ。前日、移動収納した展示品の模様替え。横田、桜井、山内さんと作業する。午後は史考会主催の歴史講演会。角家先生に前日ご出席のお礼を申し上げる。「子ども達の発表がよかった」と評価して頂いたのがうれしかった。中座して展示物の片付け作業。大山、山内、山田さんが応援して下さい。

3月20日(火)版画美術館へ展示。山本さんの車で版画美術館へ。瀬川さんも来て下さる。会場が広いので展示物が見栄えがする。昼までかかる。和光鶴小の松井先生、夕方遅く残りの「真光寺川鳥獣戯画」と「いろは歌留多」を展示して下さい。

3月21日(水)「HATSの懇談会」。午後から版画美術館へ。朝方、松尾、山本さんがずれた写真を手直しして下さい。壁面2面を使って堂々たる展示となった。18時から森野庁舎で行われたの懇談会へ出席する。これでようやく「HATSのつどい」が終わる。実行委員会、企画委員会展示と発表の準備と殺人的スケジュールに忙殺される日々だった。それなりの成果が得られたと充足感を味わうことができた。協力して頂いた方々へ感謝したい。

{4月}

4月1日(日)「緑にHATS」でトーク。総会后、地域活動についてトークしてほしいと依頼があった。「川と子ども達の交流」を中心に2時間ほどお話しする。

4月5日(木)「里親通信」4月号発行。黒田さんが編集して下さいした原稿を山本、二田さんと支所で印刷。段取りがよくなり1時間で終わり関係先へ配布する。18時から「魚民」で一木会、開催。

4月8日(日)清掃作業。快晴。清掃作業日和だ。権現橋の上流に大きな青大将がとぐろを巻いていた。前月も作業が出来なかったので大量のゴミを拾得する。終了後いちよう会館で反省会。

4月26日(木)水質検査サンプル採集。新緑が美しい。7時に家を出る。開戸親水で「里親通信」用の写真を撮る。「真光寺川八景」を選び誌面に順に紹介することになった。一巡して10時前に松前さんへお渡しする。午後「里親通信」の原稿に取りかかる。(この項おわり)